

## (10)九州



九州地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあり、持ち直しの動きに一服感がみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)

### 前回調査からの主要変更点

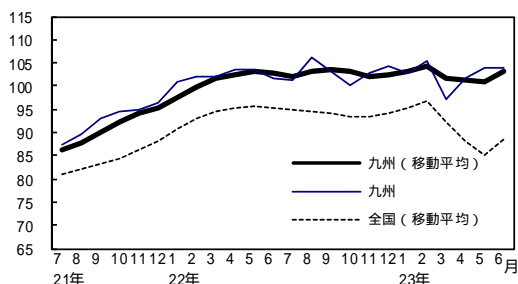
	前回(平成23年5月)	今回(平成23年8月)	
景況判断	東日本大震災の影響により、弱含み	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	東日本大震災の影響により、減少	緩やかに持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに持ち直し	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	持ち直しの動き	持ち直しの動きに一服感	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイスは、製品単価の価格下落圧力から、ロジック等モス型計数回路を中心に減少した。輸送機械は、東日本大震災の発生に伴う部材の調達難が解消したことから足下では増加に転じている。食料品・たばこは、被災した東北地域の工場の代替生産から、ビールを中心に増加した。一般機械は、堅調なアジア向け需要を背景に水管ボイラ、半導体製造装置などを中心に生産の拡大が続いている。化学は、市況の悪化からアジア向け樹脂素材が減産されているものの、被災した東北地域の工場の代替生産による医薬品の増産から、堅調に推移している。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	15.6	0.9	1.0	1.3	16.0
輸送機械	15.4	5.4	9.0	10.7	67.8
食料品・たばこ	10.6	0.5	6.9	8.2	4.0
一般機械	10.6	6.7	15.5	12.7	20.4
化学	8.2	1.2	9.9	3.2	12.1
鉱工業	100.0	0.6	1.3	1.2	12.0

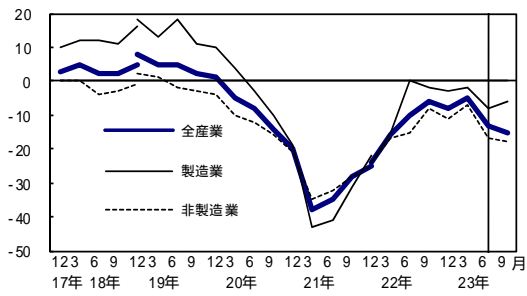
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。  
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4~6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

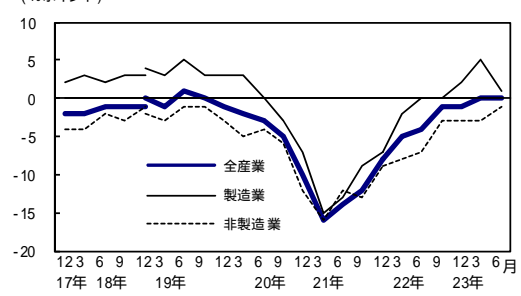
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



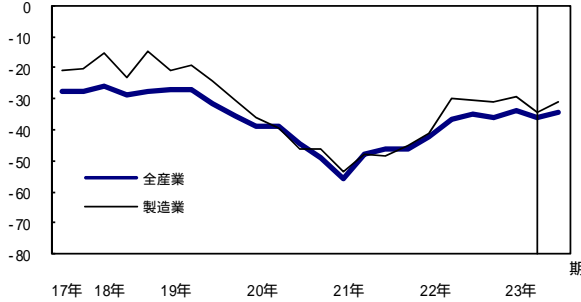
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年9月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のDI。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「荷物の動きは良くない。特に九州地区は例年、夏場は青果物が落ち込む時期になるため、荷物が減少する。夏物の季節商材は、猛暑の影響で若干動きはあるが、前年と変わりなく景気が上向く程ではない(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は、前年度を大幅に下回る計画となっている。

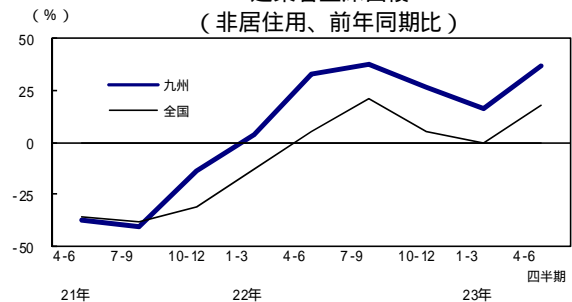
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	18.8( 0.9)	13.2( 4.6)
製造業	25.4( 4.4)	9.9( 6.9)
非製造業	15.6( 0.8)	14.9( 3.3)

(備考) 1.( )は前回(3月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

大型小売店販売額

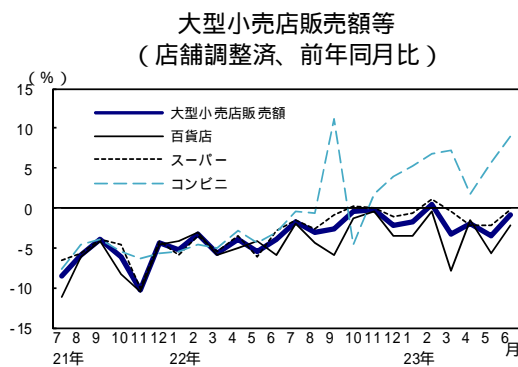
大型小売店販売額は、前年同期比で2.1%減、前期比0.9%増となった。

百貨店は、4月は、好調であった物産催事に加え、低温多雨で不調であった昨年の反動から衣料品を中心に改善し、競合店開店の影響を受けつつも前年比減少幅は縮小した。5月は、例年より早い梅雨入り及び台風の影響から客足が減少し、前年比減少幅は拡大した。6月は、中元ギフトの早期受注及び暑さ対策関連商品が好調であったことから前年比減少幅は縮小した。

スーパーは、暑さ対策関連商品や節電対策関連商品に加え地上デジタル放送対応商品が好調であったものの、例年より早い梅雨入り及び台風の影響から客足が減少したことから、前年同期比減少幅は拡大した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「東日本大震災の影響で予約が少ない。また火山の影響でキャンセルが続いている。若干取り戻している感じはあったものの、実際、来客は少ない。他のホテルの状況を聞いても散々たるものである(一般レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	2.5	1.0	1.6	2.1
百貨店(*1)	3.8	2.0	4.1	3.3
スーパー(*1)	1.7	0.4	0.0	1.5
大型小売店(*2)	1.6	0.3	0.8	1.7
(季節調整値)(*3)	(1.5)	(0.6)	(0.5)	(0.9)
乗用車(*4)	16.7	26.7	24.9	37.1
(季節調整値)(*4)	(7.3)	(32.2)	(2.6)	(16.9)

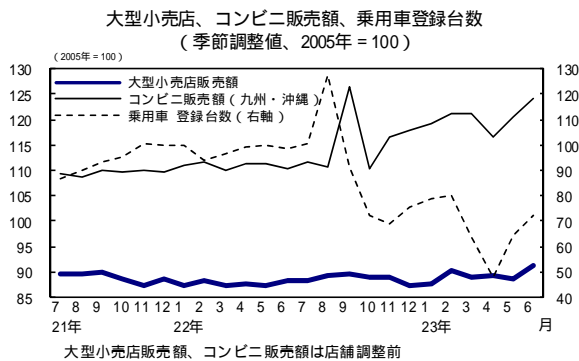
(備考) 1.九州・沖縄地区、店舗調整済、前年同期比(%)

2.九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期比(%)

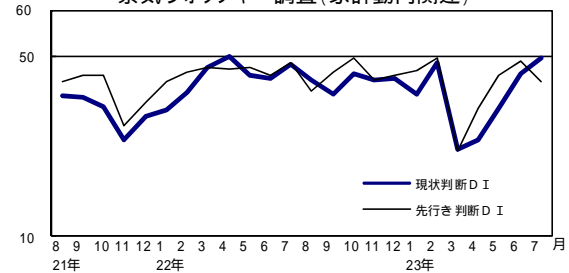
3.九州・沖縄地区、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は乗用車新規登録・届出台数。

(上段：前年同期比、下段：前期比)



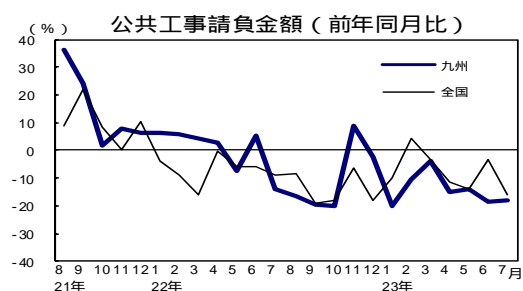
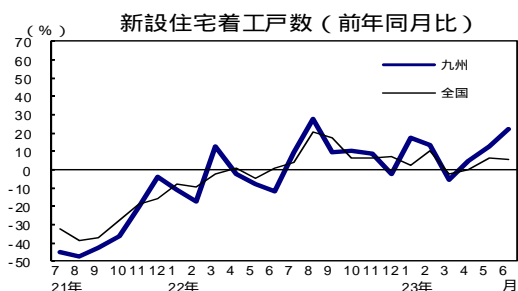
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅は大幅に増加している。

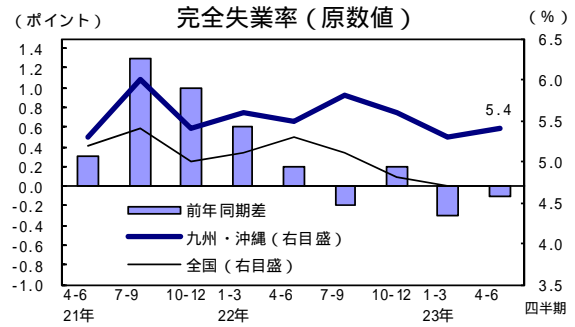
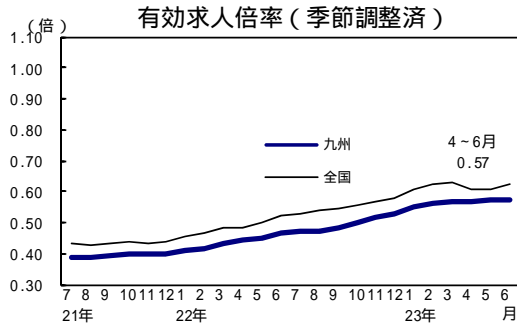
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあり、持ち直しの動きに一服感がみられる。  
有効求人倍率及び完全失業率等  
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



#### 景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

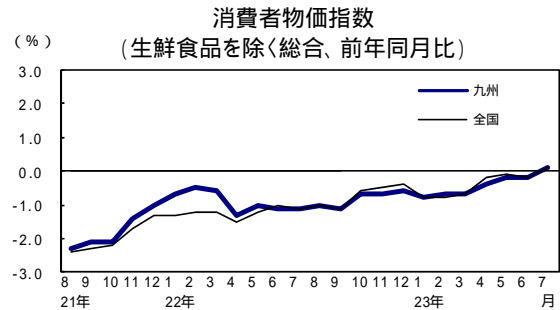
「駅ビルのオープンに伴う影響が続いている。周辺企業でフリーターの採用が難しくなっている。全体的に人手不足感と賃金の高騰が原因である（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額は大幅に増加している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

#### 企業倒産

	（件、億円、％）				
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月	7月
倒産件数	222	189	186	195	77
（前年比）	8.3	24.1	13.5	7.1	11.6
負債総額	445	481	394	888	140
（前年比）	6.4	1.0	7.1	242.3	35.6



#### 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

##### <現状>

- ・節電関連商品の売行きが好調である。今月になり衣料品も前年を若干上回っている（スーパー）

##### <先行き>

- ・スマートフォンの普及に伴う派遣依頼も増えており、新商品定着までの売上の増加が期待される（人材派遣会社）

